

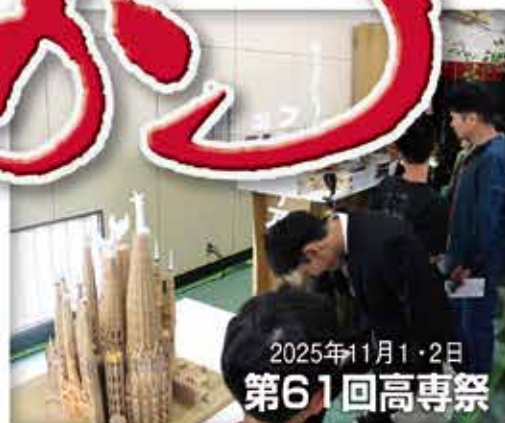
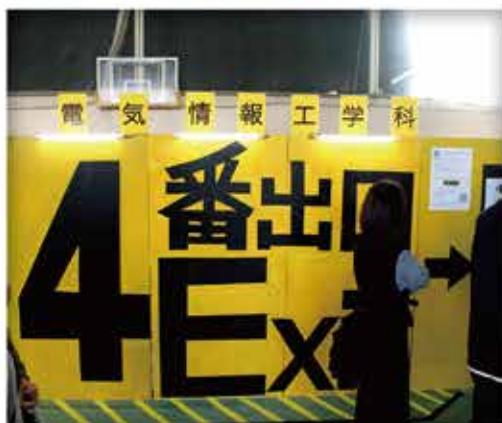


岐阜工業高等専門学校
教育後援会通信

第49号

令和8年3月1日発行

編集：教育後援会事務局



滋賀県地区保護者懇談会に参加して



教育後援会副会長

伊藤 公也

今回、教育後援会の代表として滋賀県地区の地区懇談会に参加させていただきました。18名の保護者の方、3名の学校関係者で開催いただきました。教務関係、学生関係のお話を聞き終えた後、保護者の皆さまの自己紹介を兼ねながら質問や悩み事など色々お話しして頂きました。滋賀県地区はほとんどの学生が寮生ですので離れて暮らす子供たちの実情などを知り安心をされました。また滋賀県地区の保護者の皆さまは学年、学科の垣根を越えて和気藹々と交流されているのが印象的でした。1年生の親御さんとしては同じ地域の先輩保護者とながることは大変心強いのではないかと思います。その他にも進学のこと、留学のこと、就職のことなど先生を交えて楽しく会話も弾み、とても有意義な時間が過ごせたと思います。

通常ですと16歳から20歳という年頃は思春期を経て親離れをしていくものです。また親も子供との距離感を感じながら子離れをしていくものだと思います。ただ見守ることしかできない立場ですがこういった懇談会があることにより子供たちの環境などを知ることができるようにはとてもありがたい機会です。今回参加できなかった保護者の皆さん、来年はぜひ参加されることをお勧めします。また今回参加された保護者の皆さん、来年またお会いしましょう。

最後になりますが、後援会事務局長はじめ先生方、地区理事さん、参加して下さった保護者の皆様、各々遠方からのご参加ありがとうございました。

地区保護者懇談会に参加して

美濃・可茂地区 保護者

美濃・可茂地区の保護者懇談会に出席しました。1、2年の保護者さんが多数参加してくださいました。校務報告の後に分科会があり、2グループに分かれて行われました。分科会では、お一人ずつお子さんの近況を話してくださいました。共感できることがたくさんあり、時に笑いも起きる和やかな雰囲気でした。

お話の中で、進路について不安に思っておられる声が多く、5年生の保護者の方がご自身の経験談を話してくださいました。また、先生方からも勉強についてのアドバイス、進路を決めるタイミング、その材料にキャリアアッププログラムに参加して情報を収集するといったことを教えていただきました。

子供は寮に入っていてなかなか話す機会が無いですが、学校の様子を直接聞ける機会であり、また他学科、他学年の保護者の方や先生方の貴重なお話が聞ける機会ですので、ぜひまた来年も参加したいと思います。

地区保護者懇談会開催に関して事前にいただいていた質問事項への回答(教育後援会事務局まとめ)

質問事項	回答
進学を希望している場合の受験対策や受験勉強の内容などが知りたいです	今年であれば12/10日のキャリア支援プログラムなど、進学はもちろん就職を含めての行事があり、多くのものに保護者も参加可能となっています。また、キャリア支援室には就職・進学関係の多くの過去の資料が用意されています。担任などを通じて学生は利用が可能です。全体として進学は個別対策がチャンスを増やすカギとなります。
期末閉寮時の荷物引き取り日程を土日のどちらかまで含めていただきたい。	閉寮日程は年間の日程で確定するため、必ずしも土日とならない場合があります。閉寮日までの土日を利用するか、宅配などでの配送をご検討ください。
これから冬になると雪が心配で、自宅は垂井よりなので学校より雪が多く降ります。電車通学と最寄り駅まで自転車通学とで、朝の状況と帰りの状況が変わるため、天気予報によっては帰りの事があるため、朝から学校に行かせるのが心配で、私も仕事をしているので、電車が止まったり駅から自宅までの自転車が心配でお迎えもすぐに行くことが出来ないため、朝から休ませた方がいゝのかと思います。それでも学校は行かせた方が内申とかにはいゝのでしょうか？	安全第一で判断してください。公共交通機関の遅延などがある場合は遅延証明などで出欠に配慮します。なお、1/4未満の欠席が成績に大きく影響することはありません。
オンラインでの開催もお願いします。	現時点では配布資料の個別提供までにとどめています。ご了解いただければ幸いです。
台湾とシアトル研修に行かれたお子さんの感想どうだったか聞きたいです。	殆どの参加者が満足しています。中にはもっと長くできないかとの意見も頂きました。教育後援会機関誌「ちから」でも、一部参加者からの報告を掲載しています。
卒業後の進路についてや学生が参加できる活動(留学など?)などについてお話を伺えると幸いです。	科によりかなり違いがありますので、学級懇談会や個別懇談会、地区懇の場で情報収集をしてください。学校全体としては12月10日のキャリア支援プログラムなどが人気で、保護者も含めた参加を可能としています。
教育後援会の保護者懇談会は、地区別でなく全体で年1回(2部制など)の開催にすることはできないのでしょうか？地区の代表者や教職員の負担軽減にもなると思います。	できるだけ多くの質問や意見に学校側から回答を頂くことで、学生の様子や学校の方針を確認できる貴重な機会ですので、学校側の協力が得られる範囲で、今後も地区別に継続予定です。学年・学科をまたぐ情報なども得られる貴重な機会です。



6地区で開催された地区懇談会の様子(岐阜高専会場にて)

教務主事からのご挨拶

保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

岐阜高専では、実践的で創造性に富んだ技術者の育成を目指し、専門知識の修得だけでなく、自ら考え、挑戦し、仲間と協力しながら成長できる教育を大切にしています。授業や実験・実習はもちろんのこと、クラブ活動や外部連携など、学生が自分の可能性を広げる場が数多くあります。この部分において、教育後援会さまからは多大なるご支援をいただき、感謝申し上げます。

また、近年の社会の変化に対応するため、ICTの活用や新しいカリキュラムの整備にも力を入れています。学生一人ひとりが将来に向けて確かな力を身につけられるよう、教職員一同が心を込めて指導にあたっています。

今後とも、ご家庭と学校が力を合わせ、学生の学びと成長を支えていければと願っております。どうか引き続き、温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



教務主事
柴田 良一

令和7年度雄志寮報告

平素より寮運営にご協力いただき、ありがとうございます。間もなく年度末閉寮を迎えようとしています(この原稿を書いているのは1月末)。今年も寮祭や忘年会等の大きな行事を終え、残すところ「寮生デザートの日」と寮生会誌の発行のみとなりました。今年のごデザートは昨年と同様にワッフルを配ります。地元のお店のスイーツで、昨年度は大好評でした。年度末に発行される寮生会誌には、寮生の知られざる一面(深夜のクッキング等)が描かれており、逞しく成長している姿が伺えます。

今年度は12月にインフルエンザA型が、1月にはインフルエンザB型が流行し、寮内でも連日罹患者が多数発生しました。その都度、保護者様にお迎えに来ていただきましたこと、心より感謝申し上げます。宿直二名体制とはいえ、高熱を出している寮生が居室で夜を過ごすことは私共としては非常に心配です。保護者様の目の届くところで療養していただき、栄養を取っていただくことで回復も早まるのではないかと思います。

継続入寮に関連して、令和8年度にD寮改修工事の可能性がありましたが見送りとなりました。性能維持のため築年数の古い棟から改修となります。過去にはA寮、B寮、F寮の改修工事があり、男子寮・女子寮の運用を変更したり、自宅通学・アパート居住への切り替えをお願いしたりする等して対応してきました。今回は見送られましたが、令和9年度はD寮改修工事を実施する可能性があります。退寮をお願いする際には、ご負担をかけることになり大変心苦しいのですが、寮食堂の利用等、出来る限りの対応をまいりますので、何卒ご協力の程、お願い申し上げます。



寮務主事
菅 菜穂美

研究主事からのご挨拶

令和7年4月より研究主事を拝命いたしました遠藤登と申します。

教育後援会の皆さまには、平素より本校の教育研究活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。地域連携・広報、そして研究部門全般を担当する立場として、皆さまからの温かいご支援が学生の学びを力強く支えていることを日々実感しております。

数あるご支援のうち、研究主事として関わりの深い国際交流事業、ティーチングアシスタント事業、図書整備事業は、学生の国際的な視野の拡大、学習支援体制の充実、学びの基盤整備に大きな支えとなっております。いずれも、学生の主体的な学びと挑戦を支える大切な取り組みです。

これからも、地域とともに歩む学校として、教育研究活動のさらなる充実と、学生が安心して成長できる環境づくりに努めてまいります。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



研究主事
遠藤 登

高専は世界に誇る教育システム

岐阜工業高等専門学校全学同窓会 若鮎会会長 宇佐美 晃三

教育後援会の皆様には岐阜高専生の活動に対してご支援をいただき、感謝申し上げます。前回の「ちから」に、全国高等専門学校連合会会長の大塚友彦氏が「高専は夢と希望にあふれる15歳の若者が入学し、5年間の一貫教育による社会に役立つ人材を育成する場所」と高専の特色を語ったとの日本経済新聞の記事を紹介しましたが、なんと、その大塚友彦氏が昨年の4月から岐阜高専の校長として赴任してこられました。大変心強く感ずるとともに一層のご活躍を期待しております。

今、高等専門学校（高専）が注目を浴びています。高専は10代後半の5年間に実践的、創造的な理系人材を徹底的に学べる日本独自の高等教育機関で、優秀な人材を産業界やアカデミアへ輩出し続け、企業の採用意欲は高まるばかりだそうです。

そして今、全国の自治体で高専を新たにつくる動きが相次いでいます。高専は全国に58（国立51、公立3、私立4）あるなか、滋賀県、山梨県、愛知県などで新設の動きがあるそうで、愛知県の大村知事は早ければ2029年にも名古屋市内に県立高専を設置する計画を発表しました。全国的に人口減少・高齢化が顕在化するなかでも、高専の存在意義があらためて高く評価されています。

学生の皆さんはそれぞれ自らの夢や希望に向かって、はばたこうとしていますが、皆さんの一人一人の素晴らしい才能と岐阜高専で学んだ力で立ち向かえば、その夢や希望は必ず実現できると信じています。そして、自らの能力と可能性を信じ、それぞれの目標に向かってさらに一層努力されることを期待しています。

我々若鮎会としても岐阜高専生のこれからの活躍に大いに期待し、できる限り応援したいと思います。

海外インターンシップ報告

先端融合開発専攻1年 東野 乃葉

私は8月18日から9月12日までの間、ベトナムにあるハノイ建築大学に行きました。本実習は、他国の建築分野の授業受講と、異文化の生活や街・建築空間の体験を目的として実施しました。

ハノイ建築大学の実習では、旧市街を対象としたフィールドワークに参加しました。現地の学生と協力し、ハンカン通りの街路や細長い路地を巡り、住民へのインタビューやスケッチを通して、商業形態や歴史的背景、人々の営みを調査しました。この活動を通じ、ベトナム独自の建築空間の特徴を肌で感じるだけでなく、現地の学生との交流を通して、文化や生活習慣についても深く学ぶことができ、非常に有意義な経験となりました。

本実習では単なる知識や技術だけでなく、異文化を尊重しながら建築を捉える視点について学ぶことが出来ました。この経験を活かして日本の地域性や文化的背景を改めて見直し、そこに暮らす人々に寄り添う建築・まちづくりを考えていきたいです。本実習の機会を提供してくださったハノイ建築大学と岐阜高専の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



国際交流室からの寄稿

教育後援会保護者から質問の多くある、本校の国際交流室関係の事業の一部を紹介します。詳しくは国際交流室のホームページ等をご参照ください。

例年、国際交流室として様々なプログラムを実施していましたが、今年度も教育後援会からの支援もあり、数多くの学生を派遣することができました。現在、岐阜高専で行なっている派遣プログラムは以下のとおりです。

- ・シアトル未来理工系人材育成プログラム
- ・NYCU台湾サマーキャンパス
- ・海外インターンシップ
- ・シンガポール研修(今年度3月実施)

参加するプログラムや派遣日数によって、支援金額は異なりますが、すべてのプログラムにおいて、高専機構および教育後援会、JASSO等の支援をすることができました。参加した学生の声と現地で撮影してもらった写真を紹介します。

- ・実際に現地の学校に行って学生と交流する機会は海外インターンシップや留学を通してでないと思えない経験だったので、楽しかった。英語でのコミュニケーションに少し苦労することもあったけれど、自分のスピーキング力が日を重ねるごとに高まっていることの嬉しさや、英語でコミュニケーションをとること自体の楽しさの感情の方が上回っていたので、結果としては苦労も含めて楽しめたと思う。(海外インターンシップ・シンガポール)
- ・参加して良かったという感想がとても大きいです。台湾の食や生活を知れたことがとても為になったし楽しかったなと思いました。そのおかげで台湾と日本の持つ良さや不便な点を理解できたことも、今後の海外に活かして良いなと感じました。また日本語があまり通じないなかでいかに工夫して相手とのコミュニケーションをうまく取るべきかを学べたことが良かったと思います。(台湾)

(参加を考えている学生に向けたメッセージ)

- ・私も出発までは言語、コミュニケーションなどの面で多くの不安があったが、研修が始まってみると、参加者同士で協力することで大抵のことは乗り越えることができ、とても楽しく過ごすことができたので是非挑戦してみたい。(台湾)
- ・値段は高いけど、絶対にいい経験になるし、見る世界が広がると思う。(シアトル)

令和8年度もこれらのプログラムを計画しています。また、校内で英語に触れることのできる英会話レッスンやトークカフェも行なっています。有意義な経験になると思いますので、ぜひご参加ください。



岐阜高専保護者向け企業見学会報告

教育後援会事務局

令和7年9月22日と26日に、各務原市主催の岐阜高専保護者向け企業見学会を開催しました。今回が初めての市の主催による保護者向けの企業見学会です。各務原市の全面的な協力により市内企業のテルモ・クリニカルサプライと川崎重工業を22日に、内藤記念くすり博物館、エーザイと川崎重工業を26日に見学させていただきました。参加者数は関係者含めて36名、46名で、内保護者は27名、32名でした。

参加者アンケートをお願いしたところ62名から回答があり、全員が全体として満足との回答でした。要望としては、来年度以降もぜひ実施を目指してほしい、もっと質疑応答の時間があっても良いなど、ほとんどが参加できたことのお礼と、来年度も継続実施を望むアンケート結果でした。

アンケート結果を踏まえて、次年度も同様に開催に向けた検討を是非実施して頂くよう、各務原市の担当者をお願いしました。参加者の募集と調整が課題ではありますが、今後も実施が確定しましたら、また、さくらメールにて参加者募集する予定ですので、是非参加のご検討をお願いいたします。

岐阜高専保護者様向け 企業見学会 行程

各務原市 商工振興課

【9月22日(月)】

08:45 岐阜高専 集合(本巣市上真桑)
08:50 岐阜高専 発
09:55 テルモ・クリニカルサプライ 着
10:00 テルモ・クリニカルサプライ 見学(90分)
11:30 テルモ・クリニカルサプライ 発
11:45 河川環境楽園 着
昼食・自由行動
13:00 河川環境楽園 発
13:25 川崎重工業岐阜工場 着
13:30 川崎重工業岐阜工場 見学(120分)
15:30 川崎重工業岐阜工場 発
16:30 岐阜高専 着

【9月26日(金)】

08:45 岐阜高専 集合(本巣市上真桑)
08:50 岐阜高専 発
09:55 エーザイ・内藤記念くすり博物館 着
10:00 エーザイ・内藤記念くすり博物館 見学
(90分)
11:30 エーザイ・内藤記念くすり博物館 発
11:45 河川環境楽園 着
昼食・自由行動
13:00 河川環境楽園 発
13:25 川崎重工業岐阜工場 着
13:30 川崎重工業岐阜工場 見学(120分)
15:30 川崎重工業岐阜工場 発
16:30 岐阜高専 着

「岐阜高専キャリアプログラム 2025」開催報告

このたび、昨年度に引き続き学生の進路指導の一環として、下記のとおり「岐阜高専キャリアプログラム 2025」が学校行事として行われました。教育後援会保護者も参加可能な企画も多数用意されていました。学生に加えて、多くの保護者も参加されていました。

・企画行事：【保護者対象行事】、【保護者陪席可能行事】

	<第1会場> 第1体育館	<第2会場> 多目的ホール (図書館棟1階)	<第3会場> クリエイティブコ モンズ (図書館棟1階)	<第4会場> 起業家工房 (1号館3階)
10:00 12:00	1-1 企業研究セミナー	2-1 保護者向け就職 支援ガイダンス	3-1 学生・保護者と 地元企業の交流会	4-1 学生向けエン トリーシート対策 講座
13:00 15:00	1-1 企業研究セミナー	2-2 大学編入学・専 攻科進学ガイダンス	3-2 学生向け面接対 策指導	
15:00 16:00				



編集後記

教育後援会事務局長 所 哲 郎

令和7年度より大塚新校長を迎え、学校の新体制が動き出しました。教育後援会誌「ちから」には、48号での大塚校長・水野学生主事・竹内事務部長に引き続き、49号では柴田教務主事、菅寮務主事、遠藤研究主事にご寄稿いただきました。また、同窓会「若鮎会」からも宇佐美同窓会長から引き続きご寄稿いただきました。教育後援会と同窓会と学校側が相互に連携することで、より有効な情報共有や来年度へ向けた教育後援会の予算活用を目指していきたいと思っています。

さて、教育後援会の地区懇談会が11月に6地区で開催されました。所も5か所の地区懇談会に参加し、多くの保護者からのご意見や感想等を伺うことができました。それらの中で特に顕著であった、可視化が望まれる事項として、

- 1.保健室・相談室関係の情報
- 2.キャリア支援室関係の情報(就職関係と進学関係を含む)
- 3.若鮎基金による資格試験合格者支援に関する情報

(各科の対象となる資格の一覧など。電気情報工学 科は実践技術単位制度の資料を含む)

の3点については、校長先生や担当副校長にも依頼し、引き続き各科全教室への掲示をお願いしました。↗

編集後記

また、9月には各務原市主催の保護者企業見学会を実施しました。地区懇後の12月10日の岐阜高専キャリアプログラム2025では、1から4学年の全学生と保護者を対象とした、就職・進学へ向けたキャリア支援事業が去年より更に拡充して展開されました。

来年度へ向けた教育後援会の決算と新年度予算の編成については、従前の学生支援の更なる充実に加えて、学生の新規事業や新たな挑戦に対しても柔軟に対応できるように、各部門の予算と予備枠を充実させました。学齢人口の減少が進む中、海外を含めて新たな高専の新設など、高専教育への世間の関心は高まりつつあります。近隣の沼津高専は大幅な学科改組を確定したとのこと。これらのことは岐阜高専の教育改革にも一層の変化が期待され望まれていることを意味しています。

教育後援会と、同窓会組織・若鮎会は学校側の教育改革を支援する要です。後援会会長および役員の皆様とともに、関係組織との連携を密にし、教育後援会予算の有効活用により一層邁進する所存です。引き続き是非、会員の皆様からの忌憚のないご意見等を事務局までお願いいたします。

教育後援会では国際交流関係の支援とは別に、学生のクラブ活動等の支援も実施しています。今年度は東海地区高専大会で勝ち上がった、陸上競技、硬式野球、卓球、柔道、水泳、バドミントンの各部門が、全国大会で活躍しました。また、これらのほかにも、大阪万博や各種コンテスト・フェスティバル等で活躍する学生を支援しました。今後も引き続き、色々な学生の挑戦と活躍を支援していきます。

次年度に関するお知らせ

教育後援会より

- ・令和8年5月16日(土曜日) 10:00～ 教育後援会役員会、13:30～ 教育後援会総会。

(午前に役員会、午後に総会を開催し、教育後援会予算と事業を審議します。)

- ・新年度から学校に準じて、教育後援会からの連絡は「さくら連絡網」により実施します。

これに伴い、印刷物での「ちから」の発行は49号を最終とし、50号からはWeb上での発行に移行します。企業見学会などの事業を開催する場合も、案内と参加募集は「さくら連絡網」により実施しますので、是非「さくら連絡網」への登録と発信情報の確認をお願いします。

発行：岐阜工業高等専門学校・教育後援会事務局

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236-2 TEL.058-323-8752

FAX.058-322-6571

URL : <http://www.gifu-nct.ac.jp/kouenkai/>

MAIL : gnctk@iaa.itkeeper.ne.jp